

CONTENTS

特集
Special Features

社会に向き合うエージェントシステム

Agent Systems Meet Human Society

- 228** 編集にあたって 石田 亨・大沢英一・新谷虎松
Foreword Toru ISHIDA (Kyoto Univ.), Ei-Ichi OSAWA (Future Univ.-Hakodate) and Toramatsu SHINTANI (Nagoya Institute of Technology)
- 229** 1. Webの進化とエージェント, セマンティックWeb 武田英明
Evolution of Web, Agents, and Semantic Web Hideaki TAKEDA (National Institute of Informatics / The Univ. of Tokyo)
- 236** 2. インターネットオークションとメカニズムデザイン 横尾 真・岩崎 敦
Internet Auction and Mechanism Design Makoto YOKOO and Atsushi IWASAKI (Kyushu Univ.)
- 243** 3. RoboCupSoccer と RoboCupRescue 野田五十樹
RoboCupSoccer and RoboCupRescue Itsuki NODA (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology)
- 250** 4. ビデオゲームに浸透するエージェント技術 中西英之・Katherine Isbister
Agent Technology Embedded in Videogames Hideyuki NAKANISHI (Osaka Univ.) and Katherine ISBISTER (Rensselaer Polytechnic Institute)
- 257** 5. 生命的エージェントによるインタフェース/メディア 石塚 満
Lifelike Agent Interfaces and Media Mitsuru ISHIZUKA (The Univ. of Tokyo)
- 264** 6. ユビキタス環境で活躍するエージェント 吉岡信和・本位田真一
Agents Meet Ubiquitous Environment Nobukazu YOSHIOKA (National Institute of Informatics) and Shinichi HONIDEN (National Institute of Informatics / The Univ. of Tokyo)
- 271** 7. 社会シミュレーションと参加型デザイン 石田 亨・寺野隆雄・鳥居大祐・村上陽平
Social Simulation and Participatory Design Toru ISHIDA (Kyoto Univ.), Takao TERANO (Tokyo Institute of Technology), Daisuke TORII (NTT DoCoMo Inc.) and Yohei MURAKAMI (National Institute of Information and Communications Technology)
- 278** 8. パネル討論: エージェントの社会的インパクト
大沢英一・石田 亨・石塚 満・武田英明・寺野隆雄・本位田真一・横尾 真
Panel: Social Impact of Agent Technology Ei-Ichi OSAWA (Future Univ.-Hakodate), Toru ISHIDA (Kyoto Univ.), Mitsuru ISHIZUKA (The Univ. of Tokyo), Hideaki TAKEDA (National Institute of Informatics / The Univ. of Tokyo), Takao TERANO (Tokyo Institute of Technology), Shinichi HONIDEN (National Institute of Informatics / The Univ. of Tokyo) and Makoto YOKOO (Kyushu Univ.)



- 286 「情報学を創る」— 科研プロジェクトがめざしたもの 人間の情報処理の理解とその応用に関する研究 松山隆司・佐藤洋一
Creating Informatics - What the KAKEN Project is Aiming at: Understanding Human Information Processing Mechanisms and their Applications Takashi MATSUYAMA (Kyoto Univ.) and Yoichi SATO (The Univ. of Tokyo)
- 296 これからの情報処理学会 社会に存在感ある学会として— 幅広い立場からの情報教育支援を— 富田悦次
Thoughts about the Future IPSJ: To Establish Our Presence in the Society - Provide Wider Support for Educational Activities in Informatics - Etsuji TOMITA (The Univ. of Electro-Communications)
- 301 これからの情報処理学会 学会が社会にできること, 社会が学会にできること— 多難な時代の情報処理学会のあり方 村山優子
Thoughts about the Future IPSJ: What IPSJ can Do to Our Society and What the Society can Do to IPSJ: How the IPSJ could Go through these Difficult Years Yuko MURAYAMA (Iwate Prefectural Univ.)
- 310 グリッドとSOAからみるWebサービス標準技術 SOAの中核技術としてのBPEL入門 (2) BPELでの変数の定義と代入 丸山不二夫
Explanations of Web Service Standards from the Viewpoint of Grid Computing and Service Oriented Architecture: Introduction to BPEL as a Core Technology of SOA - Definition and Assignment of Variables in BPEL Fujio MARUYAMA (Wakoh Univ.)

- 295 標準化よもやま話 情報技術分野の標準のWebでの無償公開 成田博和
Small Talk on Standardization: International Standards Available for Free Download from the Web Hirokazu NARITA (Fujitsu Ltd.)
- 304 研究会千夜一夜 コンピュータビジョンとイメージメディア (CVIM) 研究会 八木康史・斎藤英雄・谷口倫一郎
1001 SIG Nights: Recent Activity of SIG-CVIM (Computer Vision and Image Media) Yasushi YAGI (Osaka Univ.), Hideo SAITO (Keio Univ.) and Rin-ichiro TANIGUCHI (kyushu Univ.)
- 306 オープンソース事情 自由ソフトウェア活動を続ける g 新部 裕
Open Source Phenomena: Free Software Activities and Thoughts Yutaka NIIBE (The Free Software Initiative of Japan / National Institute of Advanced Industrial Science and Technology)
- 309 オープンソース事情 連載を終わって 大谷 真・比屋根一雄
Open Source Phenomena: Closing Remarks Makoto OYA (Shonan Institute of Technology) and Kazuo HIYANE (Mitsubishi Research Institute, Inc.)

その他

- | | |
|----------------|---------------------|
| 317 おふいすらん | 327 アンケート用紙 |
| 318 会員の広場 | 328 編集室/次号予定目次 |
| 320 IPSJ カレンダー | 329 掲載広告カタログ・資料請求用紙 |
| 322 人材募集 | 330 賛助会員のご紹介 |
| 325 有料会告 | |





今から考えれば大昔だが、30年ほど前にTransaction Agentの話を読んだ覚えがある。ユーザがコマンドラインから入力する内容やシステムからの反応を分析・蓄積することで、入力作業の支援がだんだんと賢くなってゆく、のだったと思う。分厚いマニュアルの割には大したことはできなかつたような気がする。いまや状況は一変して(進歩して?)いて、情報収集エージェントや株ロボットの類が、身の回りのサイバースペースにうようよしている時代となった。この各種のエージェントを「社会」の目で概観するのが今月号の特集「社会に向き合うエージェントシステム」。石田亨、大沢英一、新谷虎松がエディタ。Webの進化、オークションのメカニズムデザイン、ロボカップとロボカップレスキュー、ビデオゲームへの浸透、生命的エージェントによるインタフェース、ユビキタス社会とエージェント社会、社会シミュレーションなどといった記事が並ぶ。最後の「パネル討論」に載っていたフロアからの「知らないエージェント同士が自動的に協力し合うような社会はくるか」という質問に対する応答内容がかなり現実的なものであったのが印象的。

“これからの情報処理学会”シリーズの今月分は、教育への取り組みの重要性を力説している「社会に存在感ある学会として一幅広い立場からの情報教育支援を―」(富田悦次)と、情報技術の光と影を踏まえた学会像を説く「学会が社会にできること、社会が学会にできること―多難な時代の情報処理学会のあり方」(村山優子)の2つ。両方とも「社会」がキーワード。「日本情報学会」というネーミング提案(富田)が目を惹く。

「人間の情報処理の理解とその応用に関する研究」(松山隆司、佐藤洋一)は“情報学を創る一科研プロジェクトがめざしたもの”のシリーズ。人間と共生する情報システムの実現のために、ヒトを知る、人を観る、人を魅する、人と交わる、人と暮らす、ということターゲットとした研究。力学系と情報系とを統合するハイブリッドな動的モデルの研究も面白そうだ。

「SOAの中核技術としてのBPEL入門(2)」(丸山不二夫)は、“グリッドとSOAからみるWebサービス標準技術”のシリーズ。BPEL解説の2回目。変数と呼ばれる構造の扱いとそれへの代入操作の説明。次回の制御構造でBPEL解説は終わるらしい。

「自由ソフトウェア活動を続ける」(g新部裕)は“オープンソース事情”のシリーズではあるが、自由ソフトウェアとOSSの差を説き嘆いている内容が面白い。このシリーズは今回で終了。まとめの言葉もある。

「情報技術分野の標準のWebでの無償公開」(成田博和)は“標準化よもやま話”の1つだが、規格(標準)の販売収入に固執する旧勢力との戦いの歴史。印刷物が馬鹿高いJIS規格を思い出す。

シリーズ“研究会千夜一夜”としては「コンピュータビジョンとイメージメディア(CVIM)研究会」(八木康史、斎藤英雄、谷口倫一郎)で「21世紀CVIMは変わります」という活性化企画が中心の記事。(Kuwm)



会誌編集委員会

編集長

川合 慧

担当理事

石田 亨

長谷川 亨

本号エディタ

安達 淳

天野 真家

大沢 英一

大谷 真

片山 博

兼宗 進

木戸 彰夫

久門 耕一

坂井 修一

白木 善尚

新谷 虎松

田中 哲朗

田中 穂積

土井美和子

比屋根一雄

前田 英作

間瀬 久雄

三浦健次郎

安信千津子

編集スタッフ

後路 啓子

町田 善江

綿谷 亜樹